

## ◆ 基礎情報

計画名	短期大学×共立リーダーシップ 広報プロジェクト
実施責任者	生活科学科 渡辺明日香
対象者	生活科学科・文科 1年生・2年生16名 および両科助手
実施期間	2025年4月～2026年2月

## ◆ 取組み概要

短期大学（生活科学科・文科）の学生広報スタッフが中心となり、学科Instagramを軸に、キャンパスライフの魅力を取材・編集・発信する取組である。高校生に近い学生ならではの視点で、授業の学び、学生の日常、学内施設、行事・イベントの様子を取り上げ、親近感のあるメッセージとともに届けることで、短大のイメージ向上に資することを目指した。併せて、企画力・発想力・デザイン力・プレゼンテーション力、IT/SNS運用スキルを高め、就職・編入学で語れる経験（学チカ）として自己効力感を育むことを目的とした。

プロジェクトの核となるワークショップでは、生活科学科の卒業生であり、アパレルブランドプロデューサー・インフルエンサーとして活躍する石橋萌奈実氏を講師に招聘し、Instagramのリール動画制作やSNS運用のノウハウをプロから直接学ぶ機会を設けた。学生たちは「広報スタッフ」として、単にスキルを習得するだけでなく、主体的に企画・撮影・編集を行い、公式SNS等での発信の実践を通じて、共立リーダーシップの修得に努めた。

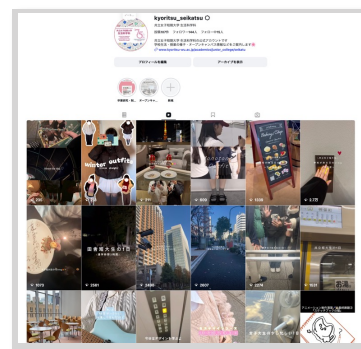
## ◆ 取組み全体の流れ

取組は①募集・キックオフ、②学習（レクチャー／ワークショップ）、③制作・発信、④振り返りの4段階で進めた。まず広報スタッフを募集し、参加者が「誰に何を伝えたいか」を共有した上で、共立リーダーシップの目標を各自で設定した。次にSNS広報の勉強会と外部講師によるワークショップを実施。12/19はInstagramの基本、12/22はリール制作、1/19は制作したリールをアップする実践回として段階的に構成した。リールの「テーマ」「冒頭3秒」「キャプション・ハッシュタグ」「投稿時間帯」までをワークシートで具体化。授業・ワークショップの内容としては、学生生活・イベント等取材し、撮影・編集・原稿作成を分担してコンテンツを制作、学科公式Instagramで発信した。

授業時間との重複等により、対面参加が難しい学生には、オンライン双方向、または講座の動画を事後に共有した。さらに、学習内容の振り返りと、ワークショップ内容の記録、次年度のプログラムに参考となる過去事例の保存を目的として、「短大広報ワークショップ」HPを開設し、事後学習の機会も確保した。最後に成果物を共有し、4観点に照らして自己評価・相互フィードバックを行い、次年度への改善点も整理した。



「短大広報ワークショップ」HP



学科公式Instagram

## ◆ 取組みの成果

学生広報スタッフが、取材→企画→編集→発信までを経験し、SNS運用の実践知を得た。ワークショップでは、リールの構成設計（テーマ設定、冒頭3秒、キャプション・ハッシュタグ、投稿時間帯）を具体化し、視聴者の離脱を防ぐ編集や「保存したくなる」工夫などを学んだ。振り返りでは「率先垂範」「包容性」等の伸長に加え、4観点すべての成長を実感した学生もあり、主体的に制作・発表へ取り組む姿勢や、助言を取り入れて改善する姿が確認できた。得られた知見は、今後の学科Instagram投稿や広報物制作へ継承できる成果となった。

「短大広報ワークショップ」HP  
<https://sites.google.com/kyoritsu-wu.ac.jp/tandai-koho/>

生活科学科Instagram  
[https://www.instagram.com/kyoritsu\\_s\\_eikatsu/](https://www.instagram.com/kyoritsu_s_eikatsu/)

文科Instagram  
[https://www.instagram.com/kyoritsu\\_bunka/](https://www.instagram.com/kyoritsu_bunka/)

## ◆ リーダーシップ教育に関する実践

共立リーダーシップの意識づけ、目標設定の活動	活動開始時に「受験生に短大での学びと学生生活を具体的にイメージしてもらう」など、発信の対象と目的を共有し、各自が共立リーダーシップの観点から個人目標を設定した。制作課題では、締切と到達水準を明確化し、リールの構成設計シートを用いて、冒頭3秒の見せ方や1本のメッセージを言語化することで、目標を行動に落とし込んだ。また、途中で進捗確認と修正を行い、目標の再設定・共有を繰り返して学びを実践につなげた。
協働活動	ワークショップでは、リール案や試作動画を持ち寄り、講師の助言をもとに改善点を共有しながらブラッシュアップを行った。互いの得意分野（撮影、文章、編集等）を活かし、メンバー同士で手順を示したり、素材を提供したり、制作物へやコメントで励ますといった相互支援を促した。生活科学科・文科合同の活動であることを踏まえ、学科の特色の違いも尊重しつつ、受験生に伝わる情報設計（授業風景、学生の声、施設紹介等）を検討し、完成物は相互確認の上で公開した。
共立リーダーシップの観点での振り返り	成果物（投稿・動画）を見ながら、共立リーダーシップ4観点で自己評価する形で振り返りを行った。学生コメントでは、任意参加でも対面参加を選び期限内に制作・発表をやり遂げた点から「率先垂範」を上げる声があった。また、助言や新しい知識を取り入れて「バズを意識した動画」に改善できたこと、同じ目標でも多様な表現が生まれ互いの個性を学べたことから「包容性」を実感したという声もあった。さらに、冒頭3秒や尺、テンポなど視聴者視点で工夫点を言語化できたことは「目標の設定と共有」につながり、制作過程での助け合いは「相互支援」の学びとして整理できた。

## ◆ 学生の成長に関する総括

本取組を通じて、学生は「見る側」だったSNSを「伝える側」として捉え直し、受験生の視点を想定した情報編集力を高めた。具体的には、短尺動画の構成設計、画角・テンポ調整、文字情報の整理、適切な投稿時間帯の検討など、実務に近いプロセスを経験したことで、企画力と発信力が伸長した。加えて、任意参加でも主体的に学びを取りに行く姿勢、期限や役割に責任を持つ行動、助言を素直に取り入れて改善する姿が見られ、自己効力感の向上がうかがえた。共立リーダーシップ4観点をういた振り返りにより成長を言語化でき、次の挑戦に向けた具体的行動目標へ接続できた。



## ◆ 取組を通じた全体の所感

広報活動を学内の「作業」に留めず、共立リーダーシップの教育として位置づけたことで、学生が目的意識を持って取り組みやすくなった。とくに短尺動画は成果が可視化されやすく、講師からの具体的フィードバックを受けて改善→再調整を行うことで、学習効果を高めることができた。

学生からも、冒頭3秒の重要性や情報量の調整など、これまで意識していなかった視点を得たという声があり、発信の質を上げる共通言語が形成されたと感じる。一方で、授業時間割の都合で対面参加が難しい学生もいるため、動画共有やオンライン参加の設計は今後も重要である。継続的な投稿には体制づくり（役割分担、チェック手順、素材管理）が鍵となるため、学科・文科双方で運用ルールを整理し、次年度はより安定した発信につなげたい。さらに、多岐に渡る業務の傍らで、Instagramの日々の管理・運営を率先して行ってくれている助手の存在は、非常に大きなものであることを今回の計画でも実感した。

## ◆ 今後の展開

次年度は、学科Instagramの定期更新を軸に、授業の学びが伝わるリールや「1日Vlog」等の型を整備し、受験生が入学後具体的に想像できる広報へ発展させる。卒研発表会・展示、OC等の取材を年間計画に組み込んだり、今年参加した1年生に継続してプロジェクトに関わってもらい先輩・後輩のチームを形成した上で、広報活動をより充実したものにし、学生のリーダーシップ育成と広報効果の両立を図る。